

2025年11月20日

セイノーホールディングス株式会社  
第一貨物株式会社  
トナミ運輸株式会社  
トランコム株式会社  
新潟運輸株式会社  
ハコベル株式会社  
福山通運株式会社  
名鉄NX運輸株式会社  
東京海上ホールディングス株式会社  
東京海上スマートモビリティ株式会社  
東京海上日動火災保険株式会社

## 日本の物流を魅力的な産業に変革することを目指して 物流コンソーシアム baton、企業横断型中継輸送の実証を開始

2024年11月13日、11法人で発足した物流コンソーシアム baton(以下、baton)は、2026年2月より、国内初となる複数の特積事業者による中継輸送の実証運行を開始し、将来的には企業横断型の中継輸送の社会実装を通じた長時間運転の軽減や日帰り運行の実現等、物流業界における、効率的で持続可能な物流の構築を目指します。



### 1. baton 発足後の取り組み

物流業界では、2024年4月に施行された働き方改革関連法によるトラックドライバーの労働時間の上限規制を踏まえ長距離・長時間運行の見直しが行われていますが、同時に人手不足による輸送力の低下への対応が喫緊の課題となっています。

こうした中で、baton は2024年11月に発足<sup>(\*)1</sup>以来、物流需給ギャップの解消策の一つとして「企業横断型中継輸送」(ドライバー交替方式)<sup>(\*)2</sup>に着目し、社会実装に向けて企業や業界の垣根を超えて連携を進め、検討を重ねてまいりました。

#### (1) 運行データの集約・分析を通じた中継輸送による効率的な輸送の検討

baton の参画運送事業者が保有する約13,000便に及ぶ輸送ルート・積載率・運行時間帯・曜日等のデータを集約・分析し、全国の幹線ルートにおいて中継輸送を導入することでより効率的な物流を実現できる路線を選定しました。

複数の物流事業者運行データの横断的な収集・分析は、国内初の試みです。本分析結果および実際のオペレーションの調査等を通じて得られた知見を踏まえ、中継輸送時の各種ガイドラインを策定しており、実証運行を通じて社会実装に向けた課題の洗い出しと検証を実施してまいります。

## (2)リスク負担ガイドラインの策定とオペレーションのすり合わせ

ドライバー交替方式の中継輸送では、1台の車両を複数企業のドライバーが運転し、途中で貨物積み替えをせずに輸送を行うため、事故が発生した場合の事業者間におけるリスク負担の在り方等、特有の検討課題が生じます。また、実務面においても、伝票の取り扱いや荷扱い方法等、各社で異なる運用をどのように調整・整合させるかが重要となります。

これらの課題に対し、本コンソーシアムでは、「リスク負担ガイドライン」の策定に加え、各社のオペレーションの違いを明確にし、共通化できる部分と固有の運用として維持すべき部分との切り分けを行う等、円滑な運行に向けて運用態勢を整えて参りました。

(\*1) 2024年11月13日: 日本の物流を、魅力的な産業に変革することを目指して11法人で「物流コンソーシアム baton」を発足([https://www.tokiomarinehd.com/newsroom/release/2024/a16imp000000cyct-att/20241113\\_baton\\_j.pdf](https://www.tokiomarinehd.com/newsroom/release/2024/a16imp000000cyct-att/20241113_baton_j.pdf))

(\*2) トラックは変更せず、中継拠点でドライバーが交替する方式。トレーラー・トラクター方式と異なり牽引免許等は不要である点や、貨物積み替え方式と異なり中継拠点での作業が短時間で済む点が利点。

## 2. 企業横断型中継輸送の実証概要

これまでの分析や検討、取り組みを踏まえ、2026年2月より、西濃運輸株式会社と福山通運株式会社の二社間、および名鉄NX運輸株式会社とトナミ運輸株式会社の二社間において、企業横断型中継輸送の実証運行を開始いたします。

- 期間 : 2026年2月から2か月間(予定)
- 方式 : ドライバー交替方式
- 組み合わせ : ①西濃運輸ー福山通運、②名鉄NX運輸ートナミ運輸
- 場所 : ①藤沢・厚木一堺、②東大阪ー葛西を予定
- 実証内容 :
  - 実際の輸送現場における、ドライバー交替方式による企業横断型中継輸送の運行。
  - batonにて策定した「リスク負担ガイドライン」およびオペレーションルールに基づいて、車両の合流、荷役、運行の一連のプロセスを遂行できるか、またどのような支障が発生するか検証する。
  - 上記の運用を通じて知見の蓄積と実務上の課題の洗い出しを行い、社会実装に向けた更なるルール整備や体制構築の必要性を検討する。

## 3. 今後の展望

2026年2月より開始する実証運行の検証を経て、対象路線の拡大を検討するとともに、中継輸送用の共通データベース、複数の輸送便を組み合わせるアルゴリズムや各事業者が使用できるアプリケーションの開発を検討し、社会実装を目指していきます。なお、batonに参画いただける企業の拡大も検討してまいります。

また、中継輸送に次ぐ取り組み領域として、ドライバーの労働環境や健康状態の改善を通じ、効率的で持続可能な物流の構築を目指します。これらの実現に向けて、4つの分科会活動を本格的に稼働させ、企業や業界を超えた価値共創に取り組んでまいります。

## <各分科会の概要>

4つの分科会	運ぶ 中継輸送マッチング	繋ぐ 物流施設の整備	支える ドライバーマネジメント	備える リスクマネジメント
具体的な検討項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓最適な中継先を上手く組み合わせる仕組みの設計 (事前計画策定等)</li> <li>✓中継時の時間・負担を最小化させるスムーズなマッチング方法の設計・整備 (マッチングシステム等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓中小〜大手まで企業横断で、オープンに利用可能な物流施設の確保、利用態勢の準備</li> <li>✓連結式トラックや自動運転等の次世代物流に対応する新たな物流施設の設計・整備、老朽化した施設の再整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ドライバーの労務環境をサポートする仕組みやサービスの設計 (労務管理等)</li> <li>✓ドライバーの健康管理やコンディショニングをサポートする仕組みやサービスの設計 (健康管理等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓「新しい輸送」に伴うリスク負担等に関するガイドラインの検討、リスクの適切な整理</li> <li>✓事故発生時の迅速な原因調査・再発防止の対策、実行態勢の整備</li> </ul>

## 4. 会員企業・団体 ※50音順

### ● 幹事会員

企業名	企業名
セイノーホールディングス株式会社	福山通運株式会社
第一貨物株式会社	名鉄 NX 運輸株式会社
トナミ運輸株式会社	東京海上ホールディングス株式会社
トランコム株式会社	東京海上スマートモビリティ株式会社
新潟運輸株式会社	東京海上日動火災保険株式会社
ハコベル株式会社	—

### ● 分科会会員

企業名	企業名
ENEOS ホールディングス株式会社	野村不動産株式会社
株式会社 enstem	株式会社ユーフォリア
ティーティス合同会社	株式会社リアライズコーポレーション
日本工営都市空間株式会社	—

### ● 一般会員

企業名	企業名
沖電気工業株式会社	富士通株式会社
harmo 株式会社	—

## 5. 本コンソーシアムへの参画について

本コンソーシアムへご参画について、業界ごとに1団体・企業等の条件はございません。参画をご希望される場合は下記サイトのフォームよりお問い合わせください。

物流コンソーシアム baton 事務局

<https://www.logi-baton.jp>

以上